

実証！「地域力」醸成プログラム

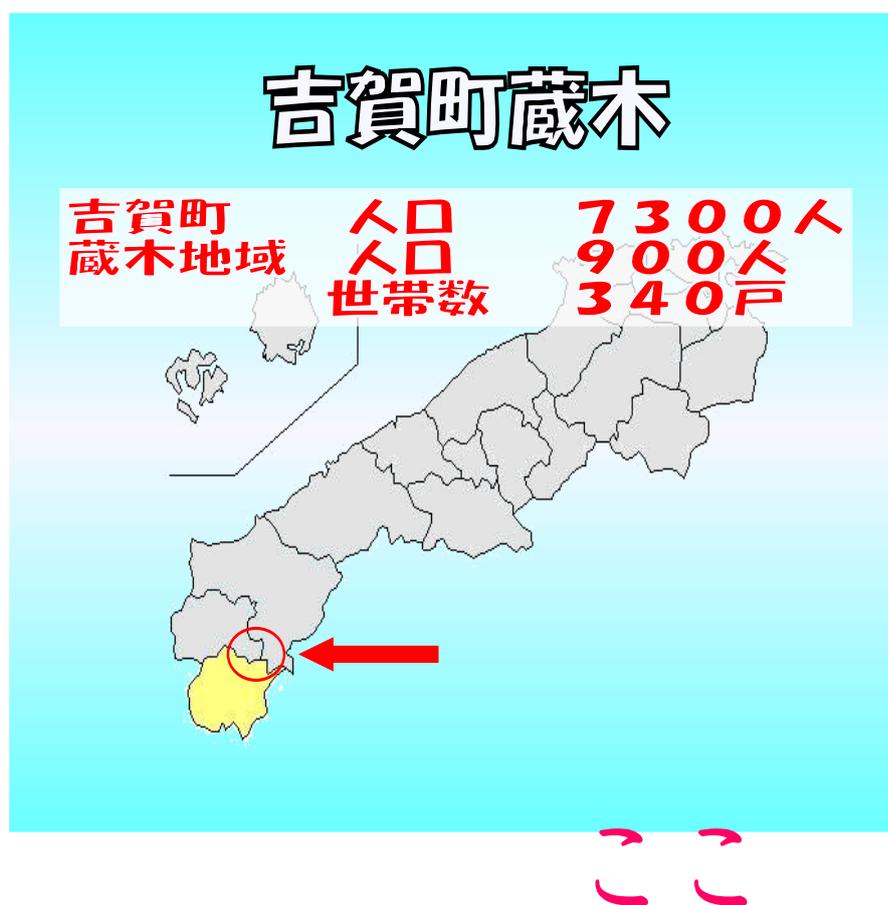
くらぎフェスタ2007 ～水源の里に心あふれて・・・～

吉賀町蔵木公民館

1 蔵木公民館の概要

蔵木公民館は、島根県の西の端、山口県との県境にある吉賀町にある。高津川の水源があり、山に囲まれた自然豊なところである。町全体の人口は、約7300人で、そのうち蔵木地区は約900人で世帯数340戸。公民館は、旧蔵木村役場の跡地に建てられた。公民館の近くには、蔵木小学校と蔵木中学校が隣接しており、近くには保育所もあるため、日頃から学校や保育所と連帯しながら、地域で様々な交流活動が行われている。

(平成17年10月1日に旧六日市町と旧柿木村が合併し、現在の吉賀町が誕生。)



2 事業の概要

(1) はじめに

①実証事業名

くらぎフェスタ2007～水源の里に心あふれて・・・～

②実証事業のテーマ

地域住民の出会いとふれあい『くらぎフェスタ』・・・保育所、小中学校、地域が一体となってふるさとの大切さを共有

③ねらい

蔵木地域も、少子高齢化が進み、地域の文化的行事も減少している。そこで、保育所、小中学校、地域がそれぞれ持っている力を合わせ、「ふるさと蔵木」を盛り上げる文化祭『くらぎフェスタ』を行い、地域と子ども、地域住民のよき出会いや心のふれ合い、地域において自分は何ができるのかを考え協力し合い、お互いのつながりを深め、地域の輪を広げ、蔵木の活性化を図ること、また、ふるさとを大切に思う心を育てることを目指している。

(2) 具体的な取組

① くらぎフェスタ

平成16年より開始。今年度で4年目を迎えた蔵木のイベント。午前中は、「蔵木の元気な人たち」をテーマに演劇を中心としたステージ発表、午後は、「蔵木の文化を感じよう」をテーマに展示・体験コーナー、ミニコンサート、バザー等を行っている。ステージ発表では、保育園児による神楽やダンス、小学生による劇や合唱・合奏、中学生による劇や音楽発表、地域や婦人会による踊り等が行われる。



イ 昼食は、PTAによるおにぎりや婦人会による豚汁を提供し、みんなで食べる

ウ バザーは、小学校は、お餅・ぎんなん・銀杏クッキー等を作り、収益金は、子ども達の教育活動に充てる。中学校は、生徒が栽培したサツマイモやふるさと学習で作成した作品等を作り、売り上げの一部をカタクリ里へ寄付した。その他にも、婦人会のバザー、公民館バザー（地域の方の善意の品物）がある



エ 展示コーナーでは、小中学生の絵画作品や習字、授業で作成した作品等の展示、地域のサークルの習字、生け花展示や公民館サークルの絵画作品、地域の方の写真、押し花絵等、また、駐在さんによる交通安全パネルの展示、人権パネルが展示され会場を華やかに飾る。



オ 体験コーナーでは、昔の遊び体験でかるたとりやおまつりコーナー、地域の方によるお茶席やレトロ喫茶等があり、子どもから大人まで一昔前の時代を体験できる。



レトロ喫茶の様子



お茶席の様子

3 事業の成果

(1) 地域の方の感想から（来場者）

- ・ 初めて来ましたが、とても盛大で驚きました。地区外からきました、親子で一日中楽しめる雰囲気だった。
- ・ 久しぶりに、友人に会って話しがはずんだ。
- ・ 若者のパワーをもらった。
- ・ 子ども達の劇では、蔵木の今まで知る事ができなかった事がわかり、大変心に残った。今後も、各地域ごとの発見をテーマに続けてほしいと思った。
- ・ 大変おもしろくて、一日が楽しく、長生きが出来る。

(2) 子ども達の感想

- ・ 最後のフェスタだったけど思い残すことがないくらい最高のフェスタになりました。
- ・ 蔵木 みんなが力を合わせるフェスタは、とてもいいものと思った。
- ・ 1・2年生の頃は気付かなかったフェスタの良さがわかった気がする。

(3) 地域の方の感想（参加者・スタッフ）

- ・ 学校・園・地域でしっかり育んでいきたい。
- ・ 普段人前で発表する機会がないので、とても緊張しましたが自信がついた。
- ・ 参加するたびに感動して、人の温かさ、蔵木の素晴らしさを感じる。このことを大事にして、私たち一人ひとりの宝にしたいと思う。
- ・ 一人ひとりの未来ある伸びる個性を引き出してくれていると思う。くらぎっ子の文化面やスポーツ面で伸びる子ども達を支え、心から応援しています。

4 課題と今後の取組

今回、地域醸成プログラムのモデル公民館に選ばれ、助成金をいただいたことで、念願の集音マイクを購入することができた。「子どもの声がよく届き、内容がよくわかってほんとによかった」と言っていた。また、中学生が、町木のドウダンツツジが身勝手な人に切り取られ、そのことに心を痛め、苗を買うための募金を呼びかけたり、ふるさと学習で作った作品の売り上げの一部を地元のカタクリの里を守る会に寄付をした。このように、子ども達の中にも「ふるさと蔵木」を大切に思う気持ちが育ってきているが、20代～30代の大人のもっと積極的に参加し、若い親世代のふるさとに対する気持ちを育てたい。今後も、学校、地域が協働してふるさとを生き生きさせ、みんなが来てよかった、楽しい一日だったと元気になる「くらぎフェスタ」を目指し、蔵木地域をもっともっと盛り上げていきたい。